

TBアーカイブス推進・運営委員会が始動 創立70周年記念事業の一環として



結核予防会
企画・情報部長 竹下 隆夫

結核予防会は今年、創立70周年を迎えた。かつて致死病と言われた結核による死亡者は、統計資料上（1883〔明治16〕年から今日に至る120年余）だけでも800万人を超え、結核が国民生活に与えた影響は計り知れない。患者や死亡者数が減少していくのは、ストレプトマイシンの発見以降、化学治療によって結核が治る病気になり、予防をはじめ対策が行き届くようになってからであり、わが国の保健システムも結核の治療と対策を通して戦後に整備されていく。

結核は、いわばわが国の近現代史のさまざまな分野に色濃くその影を投げかけずにはおれなかった、文字通りの「国民病」であった。

21世紀に入った今日、結核の惨状を知る人々は高齢になり、すでに亡くなった人も多く、わが国における結核および結核対策に関する歴史的な資料や文化的な遺産の散逸が懸念され、医学的にも学術的にも貴重な病理標本などの適切な保存・管理が必要とされている。

こうした貴重な資料の散逸を防止し、これからの研究にも役立つ重要な剖検・手術臓器、病理標本、診療録（カルテ）・フィルム、検査・手術用具、研究資料、文献等の収集および管理を行い、内外の研究者等のもとより、広く結核および結核予防に関する国民への啓発に寄与するとともに、これら資料を永く後世に継承するため、結核予防会は平成18年からTBアーカイブスの設置・運営について検討を重ねてきた。

こうした動きのなかで、平成20年12月、かつて当会の医師であった故浅羽陽先生の夫人である故浅羽俊子氏より結核予防会のために役立てたいとする貴重なご寄付を頂いた。そこで、これをご縁にこの寄付金を原資として「TBアーカイブス運営基金」を設立し、資料等の収集・解析と保存・保管を具体的に進めていくこととした。

第1回委員会は今年2月20日(金)に開催され、委員長には島尾顧問に就任していただいた。委員会における検討内容としては、①結核および結核対策に関する資料リストの作成、寄贈依頼、収集方法等の策定（資料の散逸を防ぐ意義と資料保持者への広報内容・手段を含む）、②臓器標本、文献、資料の保管・管理手順等の策定、③内外の研究者等のための研修および展示のあり方等についての検討、④基金の運営、その他で、4月以降「剖検資料」「カルテ」「フィルム」「資料収集」等のワーキンググループを設けて、具体的な作業に移ることとなった。

とりわけ、結核研究所には現在、戦前に中野療養所から寄贈された臓器標本をはじめとする剖検資料がプレハブ2棟分あり、その病理解析とデータ化（教材化）や永久的保管方法が課題であった。しかし、「言うは易し行うは難し」で、この作業には作業員へのホルマリン蒸気暴露による健康障害を防ぐ装置の設置をはじめとする困難が伴っており、標本を廃棄するような場合には慰霊・供養も必須となる。また、昭和28年に行われた結核実態調査の際の直接撮影フィルム資料、当会制作の古い映画やポスター、わが国で初めて行った肺結核の機能訓練の資料等、当会内の貴重な資料とともに当会外の貴重な資料についても、それらをどう保存管理すべきか、これまで手を拱いていたものが山積している。

末尾にお願いが一つ。「TBアーカイブス」に収集される資料は結核研究所の一隅に保管し、研究者や後世代に向けて研究・研修・展示に供することを目指しているが、将来にわたり、実際には多大な費用が必要となる。本誌読者のご賢察を賜り、物心両面のご協力をお願い申し上げたい。